

栗原の稲作通信

令和元年第1号 令和元年6月4日発行

宮城県栗原農業改良普及センター

宮城県米づくり推進栗原地方本部

電話番号 0228-22-9437

分けつ促進のため浅水管理を基本としましょう / いもち病の要因となる残苗を処分しましょう

気象経過

- 4月は、第4～5半旬の気温が高く、残りの期間は平年並～低く、中旬に降雪も見られました。日照時間は、おおむね平年並～多くなりました。
- 5月は、高温・多照傾向で、特に下旬の気温がかなり高く、26・27日は真夏日となりました。

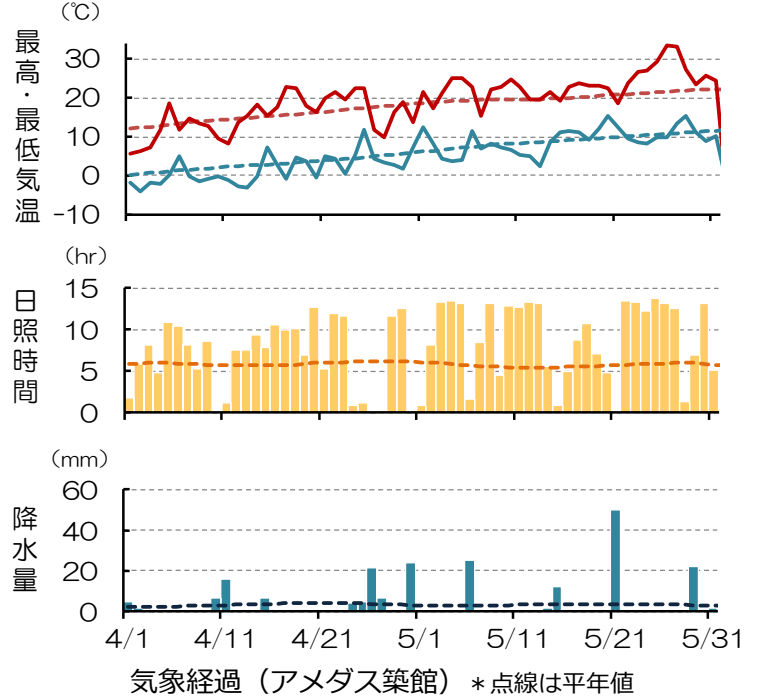
東北地方1か月予報 期間：6/1～6/30
仙台管区气象台5月30日発表より要約

特に注意を要する事項

期間の前半は少雨が続く所がある見込み
期間の前半は気温がかなり高くなる見込み

予想される向こう1か月の天候

平均気温：平年より高い確率60%
日照時間：平年並または多い確率ともに40%
降水量：平年並または少ない確率ともに40%



播種・田植え状況

- 播種盛期(50%終了)は、平年より2日遅い4月14日、播種終期(95%終了)は、平年より1日早い4月20日となりました。
- 田植盛期(50%終了)は、平年より2日早い5月14日、田植終期(95%終了)は、平年より1日遅い5月23日となりました。

生育経過

- 葉数が平年を下回る調査ほが多いですが、生育はいずれも順調です。
- 田植日が平年並～早いほ場では、草丈・茎数が平年並～上回り、田植日が平年より遅いほ場では、草丈・茎数が平年並～下回っています。

表1 生育調査ほ調査結果(5月31日調査)

品 種	地 区	田植日			草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(枚)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)
ひとめぼれ	築館 太田	5/4	1日早	1日早	31	104	107	213	133	130	6.8	-0.1	0.2
ひとめぼれ	若柳 大林	5/22	2日遅	4日遅	22	110	93	100	101	85	4.8	-0.2	-0.7
ひとめぼれ	一迫 中屋敷	5/7	1日早	2日早	26	107	100	122	133	115	5.5	-0.4	-0.4
ひとめぼれ	平均	5/11	同日	同日	26	107	101	145	124	113	5.7	-0.2	-0.3
つや姫	築館 留場	5/23	10日遅	6日遅	18	68	75	75	128	96	4.4	-1.4	-0.9
だて正夢	若柳 川南	5/11	2日早	-	27	96	-	119	95	-	5.8	0.5	-
萌えみのり	金成 新桜町	5/10	1日早	3日早	30	127	118	64	92	96	5.0	-0.4	-0.5

注) 平年値は過去5年平均値(「萌えみのり」のみ過去4年平均値)とする

今後の管理

■水管理

- ・活着後は3cm程度の浅水で管理し、水温・地温を高めて分けつの発生を促しましょう。
極端な低温が続くと予想される場合には、水深を5～6cmの深めにしてイネを低温から守りましょう。
- ・生わらや牛ふん堆肥などの有機物を多用している水田では、気温の上昇とともに有機物の分解が盛んになり、イネに有害な硫化水素などのガスが発生しやすくなります。
このような場合は、溝切りや落水管理を行い、根の活力低下を防ぎましょう。
- ・除草剤を使用する場合は、使用上の注意事項をよく読み、適切な水管理に努めましょう。

★★★だて正夢栽培のツボ★★★

だて正夢は分けつしにくいので、目標穂数を確保するためには、初期生育の確保が大変重要です。
活着後は水深2～3cmの浅水を基本として、分けつの発生を促しましょう。

■雑草対策

- ・田植え以降気温が高く、6月前半の気温も高いと予想されるため、雑草の生育が早まると考えられます。
 - ・ほ場の残草状況を確認し、草種と葉齢に応じて、中期剤の使用を検討しましょう。
 - ・ノビエ、イヌホタルイ、シズイなどの雑草により、斑点米の原因となるアカスジカスミカメが水田内で増殖して被害が助長されます。
- * JA栗っこ環境保全米では初中期剤及び中・後期剤は使用できません。
* JA栗っこぽっちゃり米(マニュアル米)では中・後期剤は使用できますが、剤の指定がありますので、JAに御確認願います。

■病害虫防除

▷いもち病

- ・補植用残苗はいもち病の発生源となりますので、補植が終了したら直ちに処分しましょう
- ・飼料用米や直播栽培など、箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、各種水面施用剤を散布しましょう。

▷イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ

- ・箱施用剤を使用した場合 …… 本田での防除は必要ありません。
箱施用剤を使用しなかった場合 …… 要防除密度(下記参照)により防除の実施を判断しましょう。
- * JA栗っこ環境保全米等では、使用できる農薬に制限がありますので、対応はJAに御相談願います。

要防除密度

イネミズゾウムシ 畦畔際2m程度の成虫密度 130頭/100株(晩期栽培は70頭/100株)
イネドロオイムシ 成虫密度 25頭/100株 または 産卵最盛期の卵塊密度 80個/100株

■春の農作業安全確認運動実施中 実施期間 4月1日～6月30日

「まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全」

農作業中の事故は農業機械によるものが多く、また、機械の転倒や転落が大きな要因となっています。
あぜ越えや路肩を走行する際には油断せずに、後方確認を行い足元にも注意しましょう。

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守しましょう。

最新の農薬登録情報は、農新水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>